

本時のねらい

- ・色彩や形に着目し、作品のよさやおもしろさを感じ取ることができる。
- ・友だちの見方や感じ方の違いについて気づき、自分の考えをもって作品のよさやおもしろさを進んで伝えることができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・名画を鑑賞し、その名画から想像したことを3Dフォトペイント機能を活用して彩色することで、簡単に色塗りができ、様々な試し塗りをすることができる。このような活動を通して色に対する感覚を培うことがねらいである。
- ・発表ノートとプロジェクターを活用し、他の児童の作品を鑑賞することで、友だちの見方や感じ方の違いについて気づくことができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレットPC
- ・SKY MENU Class 発表ノート
- ・3Dフォトペイント
- ・プロジェクター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○色の効果について復習し、本時のめあてを知る。	・プロジェクターで提示したスライド資料をもとに、前時までに学習した色の効果（寒色や暖色等）について復習する。
展開 (35分)	○ピカソの作品『泣く女』を鑑賞し、この作品の題名について考え、その題名にした理由を説明する。 ○発表ノートに書きこみ、全体で交流する。 ○なぜ「泣く女」が泣いているのか、絵から想像し、その想像したことのイメージに合うように彩色する。 ○彩色した絵を全員で交流する。	・作品を発表ノートで鑑賞しながら作品を大きくしたり、全体の雰囲気を感じたりすることができる。 ・全員の考えた題名をスクリーンに一覧で投影することで、交流しやすくする。 ・3Dフォトペイントを使って彩色することで、塗り絵のように色分けでき、背景を潰さずに塗ることができる。 ・全員の作品をスクリーンに一覧で投影することで、交流しやすくする。 ・交流内容に合わせて*「画面比較」機能を使い、考えを深める。 *画面比較機能…学習者機の画面を複数選び、並べて表示する機能
まとめ (5分)	○本時について振り返る。	・一覧の投影画面を振り返りながら、色の感じ方に対する広がりや深まりを確認する。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：作品を鑑賞し、題名を考えている場面



写真2：タッチペンを使って、彩色している場面

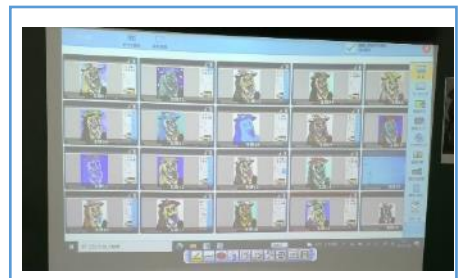


写真3：泣く女に彩色した絵をスクリーンにうつし出し、全体で共有している場面

児童生徒の反応や変容

3Dフォトペイントを使うことで、楽しく鑑賞しながら、彩色することができる。ICTを活用したことで色の効果について交流しやすく、子どもたちも「色」に対する感じ方が広がったように思う。本授業以外の場面でも「これは寒色でいいな。」「ここに暖色を使おう。」と会話をするようになった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

発表ノートや3Dフォトペイント機能を活用し、何度もやり直ししながら試行錯誤することで、思考の「過程」も大事にしなが、色の感じ方を広げることにつながった。